

令和 4 年 5 月 15 日現在

機関番号：24301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K21933

研究課題名（和文）超絶主義とプラグマティズムの「自然主義」をめぐる考察

研究課題名（英文）A Study of the "Naturalism" in Transcendentalism and Pragmatism

研究代表者

谷川 嘉浩 (Tanigawa, Yoshihiro)

京都市立芸術大学・美術学部 / 美術研究科・講師

研究者番号：60884806

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、研究代表者が行ってきた20世紀アメリカ哲学の研究を踏まえ、ジョン・デューイをはじめとするプラグマティズムに流れ込んだ「自然主義」という語彙の前史やその後の展開を探るものである。その結果、大きく二つの研究結果を出すことができた。第一に、博物学者のジョン・ミューアと哲学者のラルフ・ウォルドー・エマーソンというアメリカ文化史上重要な邂逅を果たした二人の対比を再定位する成果をあげた。第二に、デューイの自然主義が哲学以上にアメリカ社会学に流れ込み、いわばその前提となっていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

哲学や文学、社会学などの学問分野の分割に沿って学び、研究を進めている。そうした分野ごとに参照される固有名詞・概念・人名・手法が無意識に限定されるのも事実だ。しかし、そうした分野ごとの相対的自律性は、過去の知識人たちが生きていた頃は必ずしも自明ではなかった。本研究は、アメリカを代表する哲学者ジョン・デューイの「自然主義」という言葉と発想に影響される形で、アメリカの知的風景を「自然主義」の観点から再編成することを試みたものであり、必ずしも方法論や対象を共有していない面々が、関心や関わり方、目標を共有していたことを既存の学問地図とは異なる形で示そうとした点に、一つの社会的な意義があると思われる。

研究成果の概要（英文）：This study has focused on the genealogy of the Naturalism in American culture, especially literature, philosophy, and sociology in the 19th and 20th US. There are two main outcomes: The relocation of the relation of John Muir and R. W. Emerson in American intellectual history; the revelation of the fact that the American sociology has inherited John Dewey's naturalistic empiricism.

研究分野：アメリカ哲学

キーワード：自然主義 プラグマティズム 超越主義 質的調査 アメリカ社会学 シカゴ学派 デューイ

## 1. 研究開始当初の背景

W.V.O.クワイン以降の「自然主義」が真っ先に思い浮かぶ。だが、自然主義は科学哲学の専売特許ではないし、クワイン的自然主義にも前史がある。J.デューイの自然主義である。当時の雑誌で「自然主義的ヒューマニズム」が標語化したことから、自然主義はクワイン以前の米国哲学を知る上でも重要であることが窺える。

本研究は、超越主義を「ロマン主義の一形態としての自然主義」とみなし、それが、しばしば自然主義と結び付けられる決定論的世界観に抗して、経験の言語化しきれない側面を強調したこと、その視点がデューイの「自然主義」に引き継がれたことを示す。その作業によって、クワイン以前の自然主義の系譜を描く。

## 2. 研究の目的

本研究は、自身のこれまでのジョン・デューイを中心とする研究に掉さしながら、W.V.O.クワイン以前の自然主義を調査し、とりわけ超越主義と呼ばれる立場を採用した人々の自然史や進化論受容とロマン主義的立場の整合性について明らかにすることを旨とするものである。また、それと並行して想像力の働きについての理解を深め、その知見を応用した研究も行っていく。

## 3. 研究の方法

二つのことを行う。第一に、アメリカの知的動向において「自然主義」がどのような形で展開していったかを明らかにするために、プラグマティズム以前のアメリカ哲学・文学に目を向ける。具体的には、ラルフ・ウォルドー・エマーソンを嚆矢とする超絶主義とその周辺の自然観を調査する。第二に、プラグマティズムの自然主義をアメリカ社会学が引き継いだという見立てから、それらをつなぐものを掘り下げる。具体的には、ジョン・デューイの自然主義がシカゴ社会学へと流れ込んでいくあり様を明らかにするとともに、プラグマティズムをうまく取り込んだ社会学者として知られるハーバート・ブルーマーの学説的研究を行っていく。

## 4. 研究成果

本研究では、研究代表者が行ってきた20世紀アメリカ哲学の研究を踏まえ、ジョン・デューイをはじめとするプラグマティズムに流れ込んだ「自然主義」という語彙の前史やその後の展開を探るものである。

初年度は、その予備的段階として、先行研究でも蓄積の多いクワインの自然主義に関する調査と、超越主義者から多大な影響を受けたジョン・デューイの自然主義について調査を中心として遂行した。

後者の考察は、三つの成果として発表された。まず、デューイの自然権思想に関する研究が、「民主主義へのジェファーソンの『信仰』：政治的疎外、自然権、プラグマティズム」として論文化された。さらに、デューイが死後に哲学内で影響力を低下させるのと軌を一にして、アメリカ社会学に多大な影響を及ぼしたことが判明し、この点に関する研究を進めた。デューイの自然主義は、アメリカ社会学(とりわけ質的調査)の前提条件となり、その後の展開を支えるような働きをしたのである。こうした議論は、「ジョン・デューイの自然主義とは何か、そしてそれがどのように社会科学に継承されたか：シカゴ、コロンビア、カリフォルニアの社会学と質的調査」というタイトルで論文化された。デューイが死後に急速に「忘れられた」という哲学界の評価の一面性を示唆するものだと言える。

加えて、自然主義やロマン主義に関わる周辺領域での研究も行った。新京都学派における反アカデミズム的姿勢に関する発表がその一例である。ほかに、アメリカ大統領選挙に関連したシンポジウムに登壇し、選挙戦における陰謀論やフェイクニュースの隆盛を念頭に置きながら、自然主義とロマン主義の交点において想定される妥当な想像力の用法について発表した上で、公共政策学者とともに議論した。

二年目では、大きく二つの研究結果を出すことができた。第一に、博物学者のジョン・ミューアと哲学者のラルフ・ウォルドー・エマーソンというアメリカ文化史上重要な邂逅を果たした二人の対比を再定位する成果をあげた。第二に、デューイの自然主義が哲学以上にアメリカ社会学

に流れ込み、いわばその前提となっていることが明らかとなった。順に幾分詳しく説明しよう。

第一に、博物学者ジョン・ミューアと哲学者の R.W.エマーソンという交流のあった二人の人物の思想や役割を「自然主義」という視点から再定位し、その成果を研究発表した。

第二に、アメリカ社会学とプラグマティズムの連関を明らかにする研究を進め、アメリカ思想史における「自然主義」の系譜を探った。具体的には、社会学者マーティン・ハーマズリーの The Dilemma of Qualitative Method: Herbert Blumer and the Chicago Tradition を翻訳し、『質的社会調査のジレンマ：ハーバート・ブルーマーとシカゴ社会学の伝統』（勁草書房）として刊行した。本書では単に哲学を前史として扱うのではなく、19 世紀の様々な学問的試みの中にアメリカ社会学を位置づけ、現象主義などのいくつかの特徴を持つプラグマティズムを引き継ぐ形で、シカゴ社会学が展開していったとの歴史が描かれる。なお、資料収集過程で得た知見は「訳者解題」の形で発表した。

加えて、自然主義とロマン主義に関係する領域でも複数の研究を行った。ゲームツーリズム（コンテンツツーリズム）という想像力が問われる消費行動の教育性、都市社会を生きる個人の不安を取り上げた作品（Neon Genesis Evangelion）の分析など、いずれも想像力に関わる主題である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 谷川嘉浩	4. 巻 26
2. 論文標題 「民主主義へのジェファーンソンの『信仰』：政治的疎外、自然権、プラグマティズム」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人間・環境学』	6. 最初と最後の頁 13-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷川嘉浩	4. 巻 5(3)
2. 論文標題 「ジョン・デューイ自然主義とは何か、そしてそれがどのように社会科学に継承されたか：シカゴ、コロンビア、カリフォルニアの社会学と質的調査」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『フィルカル』	6. 最初と最後の頁 166-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷川嘉浩	4. 巻 5(3)
2. 論文標題 「哲学者の個人技に基づくビジネスとの協働：クリスチャン・マスピアウ『センスメイキング』を読む」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『フィルカル』	6. 最初と最後の頁 144-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷川嘉浩，磯村絢香，萩原広道	4. 巻 23
2. 論文標題 「子どもと大人にとっての『子どもらしい色』『大人びた色』は同じなのか：日用品カラーデザインの予備的実験からの考察」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『京都女子大学現代社会研究』	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷川嘉浩	4. 巻 13
2. 論文標題 デジタルゲームから考えるコンテンツツーリズムの教育性：記憶の参照、積層する記憶、確認とズレ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 コンテンツ文化史研究	6. 最初と最後の頁 26-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 谷川嘉浩
2. 発表標題 「観光と移動はどう違うのか：観光の古典的定義、観光研究史、観光の哲学」
3. 学会等名 応用哲学会第12回年次研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷川嘉浩
2. 発表標題 「愚かさの批判をどう止めるか：素朴な感覚を手に、想像力を限定すること」
3. 学会等名 東京大学UTCシンポジウム「アメリカ大統領選から見る現代社会：哲学と公共政策の対話」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷川嘉浩
2. 発表標題 「デジタルゲームから考えるコンテンツツーリズムの教育性：記憶の参照、積層する記憶、チェルノブイリ」
3. 学会等名 コンテンツ文化史学会2020年度第1回例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷川嘉浩
2. 発表標題 「新京都学派のアブダクションと「反アカデミズム」：菅原潤『上山春平と新京都学派の哲学』を読む」
3. 学会等名 歴史論研究会 菅原潤『上山春平と新京都学派の哲学』合評会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷川嘉浩
2. 発表標題 ロマン主義と自然化された想像力をめぐって：ジョン・デューイ、エマーソン、ジョン・ミューア
3. 学会等名 常識と啓蒙研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷川嘉浩
2. 発表標題 エマーソンのロマン主義とジョン・ミューアの博物学：その眼と自然描写をめぐって
3. 学会等名 関西哲学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷川嘉浩
2. 発表標題 来るべき消費の快樂のために：『ロスト欲望社会』を読む
3. 学会等名 消費社会論研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 谷川嘉浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 377
3. 書名 『信仰と想像力の哲学：ジョン・デューイとアメリカ哲学の系譜』	

1. 著者名 Benedict S. B. Chan, Victor C. M. Chan, eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 336
3. 書名 Whole Person Education in East Asian Universities: Perspectives from Philosophy and Beyond	

1. 著者名 西條辰義, 宮田晃碩, 松葉類編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 206
3. 書名 フューチャー・デザインと哲学：世代を超えた対話	

1. 著者名 岡本健・松井広志・松本健太郎編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 206
3. 書名 ゆるレポ：卒論・レポートに役立つ「現代社会」と「メディア・コンテンツ」に関する40の研究	

1. 著者名 竹田信弥, 田中佳祐	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 192
3. 書名 読書会の教室：本がつなげる新たな出会い 参加・開催・運営の方法	

1. 著者名 マーティン・ハマーズリー, 谷川嘉浩訳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 質的社会調査のジレンマ 上巻：ハーバート・ブルーマーとシカゴ社会学の伝統	

1. 著者名 マーティン・ハマーズリー, 谷川嘉浩訳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 質的社会調査のジレンマ 下巻：ハーバート・ブルーマーとシカゴ社会学の伝統	

1. 著者名 Christian Cotton, Andrew M. Winters, eds.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Open Universe	5. 総ページ数 232
3. 書名 Neon Genesis Evangelion and Philosophy: That Syncing Feeling	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----



7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------